

## 第 244 回 日本経営倫理学会・理念哲学研究部会の議事録

部会長 村山元理

日時 令和元(2019)年 6月24日(月) 18:00-20:00

場所 企業家ミュージアム (丸和ビル2F 外神田2-2-19)

研究報告 宇佐神正明 「世界史への一つの視点と経営倫理」 配布物 A4 3枚

参加者 宇佐神、山本、古山、長塚、新川、村山 の6名

欠席届 青木、井上、望月、佐藤(休会)、辻井(休会)

議題：研究大会の総会における会長立候補表明問題について議論。

・・・水谷会長が亡くなり、水谷会長のもとでの信頼のネットワークが失われた。倫理学会らしくない事態へ。排除や無理解ではなく、学者と実務家との調和的発展が望まれる。

研究報告の概要：今回の統一論題「AI/ロボット時代における経営倫理」からAIによって人間の一部の仕事をAIが担うことになり、日本の役割分担社会がより現実化する。西洋近代のデカルトによる個人主義の哲学とは分かち合いのしない独立した個人を前提し、それに基づく民主主義社会は破綻している。ここにおいて個人に基づく社会は万能ではないことが露呈している。その西洋でも、Stokerは良心について論じて、哲学的人間学を展開した。和辻も人間の学としての倫理学を論じるなかで、共同体的生への対応の要請を論じて倫理学を構築した。宇佐神の師である金子武蔵は日々の要求としての倫理学を創った。哲学的人間学はマックス・シェーラーを嚆矢としてゲーレンにおいてピークに到達する。その人間学において学習、経験、負担免除と制度によって人間が生まれながらにして一から学び直さずに文明を継承して生きていく。大陸では、ノラを舞台に生存競争の要請から諸発見、文明とそれによる権力が保持された。一方、日本はハラを舞台に豊かな自然資源があり、各地で独自の文化を形成して、役割分担社会が形成され、生の象徴としてとしての権威が存在した(天孫降臨と皇室)。これはダビデの子孫によって大和王権へと王朝が継承されたのである。日ユ同祖論をさらに強化した矢原広喜『古事記神話は偽書ではなく、真書だ』(たま出版、2018年)においてこうした証拠が明らかになった。同書によればイザヤ書に移民の乗せた船が東に行ったことが書かれている。東の島々とは日本を意味する。日本の金がダビデ、ソロモンに運ばれた。

古山：西洋と日本の対比、個人主義と共同体主義の対比。サンパウロにも多くのユダヤ人がいた。イザヤ・ベンダサンの「日本人とユダヤ人」が売れ、日本人の自尊心をくすぐるが、旧約聖書には日本のことは何も書かれていない。ただ矢原広喜の書をアマゾンで注文してみる。

長塚：個人主義も民主主義も良くないのか？ 個人主義とは何か？・・・共同体主義へと西洋社会も変遷し、社会的自己という日本的な個人観が世界の主流になってきた。そうした共同体主義にもとづく経営倫理が確立されないといけない。

今後の予定 7月、8月 なし

9月30日(月)第5月曜日の予定